



山種美術館「おうちで日本画」 ×鶴ヶ谷ことぶき大学 田能村 直入《百花》(部分)を 個性豊かに塗っていただきました！

→C・S様：まるで印象派の
ような光の捉え方！緻密で繊細な
グラデーション、皆様にも是非
近くで御覧いただきたいです。

←A・K様：ビビッドな色使いで
コントラストも効いて
凛とした仕上がりですね！
素敵な作品、飾っておきたい☆

コロナウイルス

二月の末頃からコロナの事が話題になってきました。当時は人から人へ感染しないとかサーズの時より軽いといわれていたので気楽に考えていました。

マスクも花粉症の予防の為に買う位でした。それが今でも役にたっています。だけど実際は今迄経験した事のない事態でした。

外出はいつもマスクをして、手洗い、ウガイ三密に気をつけソーシャルディスタンスに気をつけたり、TVのニュースを気をつけて見るようになってきました。

ことぶき大学もしばらく休講になりました。不安な気持ちで参加するよりかえってほっとしています。外に出かける事は嫌になり、夜になると精神的ストレスからつかれて本を読んだりTVを見たくなくなりすぐ眠くなります。早く予防薬、治療薬が出来て、安心して暮せる世の中になりますよう祈っています。

C・S

小さくて赤い実は
すっぱ〜い！
『やまとなでしこ』の
ドラマで花が咲いて
実がなると幸せになれる
〜と苗を買って
置いて行った娘は、
幸せそうです！
…とK・S様より。
優しい娘さんですね☆

自粛生活で感じたこと

K・S



ワイルドドロップベリー



C・S様が
春の散歩で出会った
草花を描いてください
ました。可憐な花たちに
癒されますね！



コロナウイルスの為の自粛生活で、改めて感じた事は、私って、ほとんど外出しなくても『その事』が苦にならない人間だという事でした。元々、外出する時は用事がある時のみ。その場所しか行かない。街ブラとか、ウインドーショッピングなんて嫌いだし。
今回、仕方なく外出したのは、治療中だった歯科医、薬を頂いているクリニック、食料品は週一回、あとはほぼ在宅だった。
洗濯、掃除、庭先(猫の額ほどの)に出て草花の様子を見る、テレビ、お昼寝、刺し子にパッチワーク、パズル、お琴を弾いて(三味線は皮が裂けてしまった)、口笛を吹きながら、新聞を読む。友人とのランチや、いろんな行事が中止になったけれど、元気でいれればいざまた会える。茨城の実家の兄の七回忌法要も欠席だったが、そのうち墓参りしよう。
唯一、心配なのは運動不足になったこと。少しずつ足ならしをして『その時の為に』備えようと思う！



鶴ヶ谷 ことぶき大学通信

令和2年7月発行
公益財団法人
仙台ひと・まち交流財団
鶴ヶ谷市民センター
〒983-0824
仙台市宮城野区鶴ヶ谷 2-1-7
☎022-251-1562

この度は初めての試み、『鶴ヶ谷ことぶき大学通信』に沢山の寄稿を賜り、誠にありがとうございました。率直なご感想に思わず共感、納得、広い見識、するどいご意見に感服させられ、丁寧な作品や美しい写真に癒されました。災い転じて福となす：発想の転換で、束の間の楽しいお時間をご提供、前向きに日々を送るお手伝いできましたら幸甚です。

令和ルネサンス

K・I

令和時代のスタートを飾るスポーツの祭典『東京オリンピック・パラリンピック』の開催に向けて、日本人の誰もが沸き立っている最中に、日本のみか全世界が未曾有の悪疫「新型コロナウイルス」の感染に見舞われようとは誰一人として想像し得なかったことです。

五輪の実施は曲折を経て、約一年間延期と決まったが、「コロナ感染が日本のみならず全世界で終息を見て」実施可能となるか否かは不透明です。

厚労省を中心とする政府の対策委員会では水際対策に配慮し「三密」を主とする国民の外出自粛を促し、マスク、消毒など励行を図りながら感染の減少終息を目指しています。

一方学校の一斉休校、オンライン授業、テレワーク、営業自粛など日常生活は大きな負担や変容を余儀なくされその被害は甚大です。

国民は等しく「巣ごもり」状態を強いられましたが、困難不慣れた日常を経験する一方で多くの教訓示唆を学ぶことが出来ました。

感染者数の推移が心配されますが、一部集中地域を除けば小康状態でいつ大感染の再来があるか危ぶまれ「ウィズコロナ」の状態で現状維持が肝要です。

国や自治体の対策は道半ばですが、コロナ終息後の明確な展望を策定することも大切です。経済対策のみならず、広く教育、文化など言わば令和ルネサンスの提唱が望まれます。

素敵なお写真
いただきました

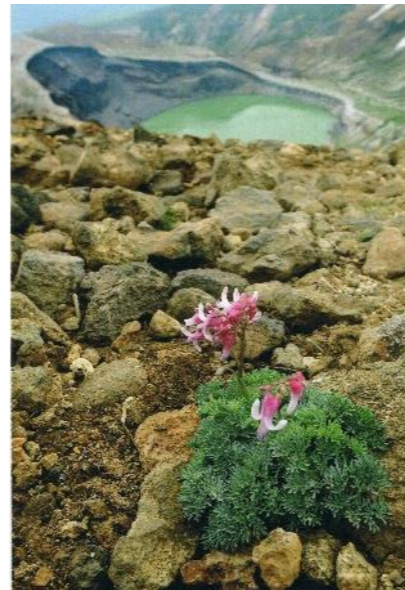
撮影：
Y・A様



ワイルドローズ



サンカヨウ



蔵王のお釜とコマクサ



ウスユキソウ 月山にて



『虎列刺』 Cholera の碑

S・A

二十一世紀は特効薬のない、新型コロナウイルスとの闘い。人類は恐竜や巨大動物との戦いには勝利を制してきたが、なぜか微細なウイルス (Virus ラテン語) には弱い。

歴史を繙くと、八世紀に天然痘が全国に流行し政権中央の藤原四兄弟を始めとし、総人口の三割が死亡。十九世紀にコレラが全国に流行し江戸だけでも十万人死亡。同じく十九世紀にははしか大流行。二十世紀にはスペイン風邪が世界に猛威、日本の死者は約三十九万人と記録にみえる。

翻って身近な仙台では、百四十年前の明治十五年、コレラ虎列刺 Cholera の大流行をみる。

七月十九日に亘理郡荒浜に発生し、三日後に仙台に伝染し、終息は九月六日、連続五十日に及ぶ、罹病者九三〇名、死亡者四一〇名になる。死体の焼却と埋納は仙台市荒巻本沢、水の森市民センターの裏山で、今供養塔と叢塚(くさむらづか)が残る。

白内障 むりえの花に 虫めがね
目の手術 顔のシワにも おどろいた
目の手術 ほこり見えすぎ 大掃除
仕事やめ ゴロゴロひるね もうあきた

『自粛生活中』の出来事と思う事

Y・N

その①クルーズ船で新型コロナウイルス発生と報道されるとマスク不足が発生、マスクを求めて長蛇の列、このオジサンもその一人だった。入手困難なそのマスクも六月二〇日、あるストアでは五十枚入りが八百八十円で山と積まれていた。

その②運動不足解消にと、近所の砂場の縁石で両手に鉄アレイを持ってバランス運動やスクワット運動。後日腰に異常を感じ整形外科へ：レントゲン撮る。結果：腰部変形性脊椎症：軟膏を貰い腰にベタペタと鏡を頼りに塗る、哀れな哀れな『オジサン』

その③歴史散策やお花見にカメラは必需品であるが、落すと大変な事になる。：鶴ヶ谷中央バス停の前で、新緑を撮影中に落下し本体三ヶ所にキズ、念の為修理見積に出す、：修理代六万二千四百円の見積書。：手元の保険証券で補償出来る事を確認し後日修理。修理代から免責額三千円を引いた金額が振込まれホッとす。

その④自粛中のオジサン宅のベランダの生き物毎朝、豪華な食事を催促する警戒心皆無で推定二十歳の武骨な『亀』と長い尾鰭、中鰭を自慢げにヒラヒラさせ、ワタシ綺麗でしょうと水中ダンスを披露する幼魚から育てた今年四年目の三匹の『鉄魚』

その⑤コロナウイルス関連の外国語：
新型コロナウイルス感染を巡ってカタカナ語の多用状況に疑問を呈している人も多いと思う。

叢塚は、焼場の余骨と灰を集めて建立し、コレラ流行の状況を碑面に、宮城控訴院長(現在の仙台高等裁判所長官)の西岡通明が選書している。新型コロナ終息の曙にでも足を運んで熟視してみるのも、脳細胞の活性化の一助かと考えられる。

「余録」
最近、古くから疫病流行に収束の効果がある「アマビエ」という妖怪が話題になっている、江戸時代の弘化三(一八四六)年生れの半人半魚、新型コロナ折伏に役立つかも!!

← 叢塚 (仙台市博物館提供)



→ 瓦版に描かれたアマビエ (京都大学附属図書館所蔵 『肥後国海中の怪』部分)
●長髪に鳥のようなくちばし
●うろこのある胴体
●けむくじやらの3本脚

川柳コーナー A・K様

年とると 話も聞かず くちはさむ
一日が テレビ見えていて 過ぎて行く
お昼食べ 目がさめた時 暗かった
目をさます 今日生きてた 確認す

パンデミック、クラスター、ロックダウン、オーバーシュート、等々のカタカナ語。オジサンは声を大にして言いたい、日本には伝統的な日本語がある。日本語でと!!!

その⑥十萬円の定額給付金は後世(子孫)に残す赤字国債か?現在の確定申告書の項目には(東日本大震災)復興特別所得税額欄があり、基準所得税額に二・一%を加えた数値が加算される様になっている、次年度からは新たにコロナ特別税の項目が追加されるかも??

その⑦過去の定額給付金は平成二十一年に二万円貰った、購入したのは、今も鈍い頭の研磨材として使用している『広辞苑』『古語辞典』とメモ代わりの『ボイスレコーダ』である。
：今回の給付金の使用予定はと聞かれたら迷わずタブレットとスマートフォン……と。

以上

整理整頓
アルバム・天袋の整理
洋服、セトモノ
いらぬ物を捨てる
毛布洗 (K様)

チャレンジしたいこと
ヴァイオリンの瞑想曲
『タイ』を弾きたい
(ツキノヒカリ様)

ホーム感を
ステイホームの雑感を
教えてました♪

感じられたこと

ツキノヒカリ

コロナの禍いで会社や老舗の倒産、失職と続いています。売上の低下、社員の給料、家賃の支払い等、総てお金で解決できるものばかりです。これ等のお金を一時国で立替てあげることが出来ないのかなあと考えますが、どうなのでしょう?

給料が減り、食べ物を節約して、痩せたとか体重が減ったとか云っているテレビを見ました。私は八十四才で戦時中の衣食住の困難な時を体験しています。当時は全て物が無い時代で、お金で解決出来ませんでした。
今は食料が充分にある時代なので、政治家は自粛を強いるばかりでなく、その先をも考えなければならぬのではないかと感じられました。

鶴ヶ谷ことぶき大学 受講生の皆様へ 安全確保の為のお願い

開講式は9月を予定しております。会場は1階ホール、全席自由席のパイプ椅子を、前後左右2m程度の間隔を空けて設置いたします。後方座席の方はマイクの音が遠い、スクリーンの資料画像が見え辛い等、ご不便をおかけする場合がございます。ご了承ください。

これからの生きざま

Y・A

『人生百年時代』と云われている時に自分も八十路に入り最近頓にこれからの生きざまをどうすればよいのかと考える今日この頃です。

- 一、人間がこの世に生きていくということ、人間の生活、人生意気に感ず、功名をまたたれか論ぜん(人は人の意気に感じて仕事をするのだ。名誉や栄利のためではない)
- 二、人がこの世に生きている期間。生涯とも云われていきます。

慶長八年正月十五日徳川家康が次のように話しています。「人の一生は重荷を負って遠き道をゆくがごとし。急ぐべからず。不自由を常と思えば不足なし。心に望みおこらば、困窮したるときを思いだすべし。堪忍は無事長久の基、怒りは敵と思え。勝つことばかり知りて、負くることを知らざれば、害その身に至る。おのれを責めて、人を責むるな、及ばざるは過ぎたるよりまさされり」。

- 人間は生、老、病、死の四苦は逃れられない。小生これからの生きざまは、「禍福はあざなえる縄の如し」念頭に
 - 一、人のお世話にならぬよう。
 - 二、人のお世話をするよう。
 - 三、そして報いを求めぬよう。
- 心掛けてこれからの人生を過ごしたいと思っています。